

# 東北地方 3 か月予報

( 3 月から 5 月までの天候見通し )

平成 2 0 年 2 月 2 5 日  
仙台管区气象台発表

## < 予想される向こう 3 か月の天候 >

向こう 3 か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。  
気温は、平年並または高い確率がともに 4 0 % です。

3 月 東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

気温は、高い確率が 5 0 % です。

4 月 東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。寒暖の変動が大きい見込みです。

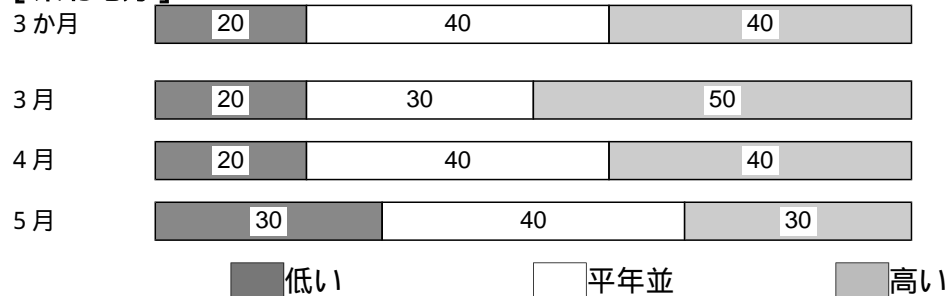
気温は、平年並または高い確率がともに 4 0 % です。

5 月 東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。寒暖の変動が大きい見込みです。

## < 向こう 3 か月の気温、降水量の各階級の確率 ( % ) >

### < 気温 >

#### [ 東北地方 ]

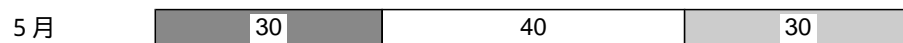
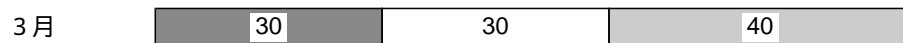





< < 降水量 > >

[ 東北日本海側 ]



[ 東北太平洋側 ]



 少ない       平年並       多い

< 次回発表予定等 >

1 か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は2月29日

3 か月予報：3月25日（火） 14時

3月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

## < 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）平年値（月・３か月平均気温、降水量、日照時間）

	気 温( )				降 水 量(mm)				日照時間(時間)			
	3月	4月	5月	3月～5月	3月	4月	5月	3月～5月	3月	4月	5月	3月～5月
青森	2.0	7.9	13.1	7.7	69.5	60.7	78.8	209.0	140.8	187.3	210.1	538.3
深浦	2.6	8.3	13.0	8.0	78.3	93.3	108.8	280.4	120.0	174.7	197.4	492.1
むつ	1.4	7.2	12.1	6.9	77.3	81.1	92.3	250.6	154.3	193.8	207.7	555.8
八戸	2.3	8.3	13.1	7.9	51.6	58.9	84.7	195.2	173.8	194.3	207.5	575.6
秋田	3.2	9.2	14.2	8.9	93.0	117.6	122.8	333.4	135.7	175.0	191.4	502.1
盛岡	1.8	8.4	13.8	8.0	80.1	93.8	103.3	277.3	167.3	175.1	194.9	537.3
大船渡	3.5	9.0	13.6	8.7	91.8	138.0	149.8	379.6	168.7	176.0	196.3	541.0
宮古	3.0	8.7	13.1	8.3	85.9	96.3	98.4	280.6	182.9	192.3	191.8	567.0
仙台	4.5	10.1	14.9	9.8	73.0	98.1	107.9	279.0	182.3	190.9	198.7	571.9
石巻	3.7	9.2	14.0	9.0	70.3	91.8	98.2	260.3	189.7	192.6	206.5	588.8
山形	3.1	9.8	15.4	9.4	66.5	68.1	81.3	215.8	146.5	180.3	201.9	528.6
新庄	2.0	8.1	14.2	8.1	112.1	98.3	106.6	313.6	117.2	150.2	180.1	448.2
酒田	4.2	9.8	14.9	9.6	103.5	105.5	116.8	325.8	126.1	173.1	198.7	497.8
福島	4.9	11.3	16.5	10.9	76.9	79.5	87.5	243.9	179.2	188.6	198.1	565.8
若松	3.0	9.9	15.5	9.4	63.9	63.4	80.5	207.8	140.1	175.8	197.9	513.7
白河	3.6	9.8	14.8	9.4	71.1	100.5	120.0	291.6	183.4	184.2	188.4	555.9
小名浜	6.2	11.1	15.1	10.8	106.1	128.3	147.0	381.4	187.8	186.1	198.4	572.3

欠測により平年値を求めるための資料年数（観測値のある年数）が各月毎に異なることなどにより、３か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

（２）1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	3月	4月	5月	3月～5月
気温平年差( )	東北地方	-0.4 ～ +0.4	-0.3 ～ +0.5	-0.3 ～ +0.4	-0.4 ～ +0.2
	東北日本海側	-0.4 ～ +0.4	-0.5 ～ +0.6	-0.3 ～ +0.4	-0.4 ～ +0.3
	東北太平洋側	-0.4 ～ +0.3	-0.5 ～ +0.5	-0.3 ～ +0.4	-0.3 ～ +0.4
降水量平年比(%)	東北地方	87 ～ 111	89 ～ 112	86 ～ 115	91 ～ 106
	東北日本海側	90 ～ 109	90 ～ 110	84 ～ 110	94 ～ 107
	東北太平洋側	78 ～ 120	84 ～ 113	82 ～ 111	89 ～ 106
日照時間平年比(%)	東北地方	91 ～ 108	94 ～ 103	98 ～ 105	98 ～ 104
	東北日本海側	92 ～ 108	92 ～ 106	95 ～ 104	99 ～ 104
	東北太平洋側	96 ～ 107	95 ～ 102	99 ～ 106	98 ～ 104

## < 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の３つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ３３％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった１０％以下や６０％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（３０％、４０％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。

# 東北地方 3 か月予報解説資料 (3～5 月)

平成 20 年 2 月 25 日 仙台管区气象台

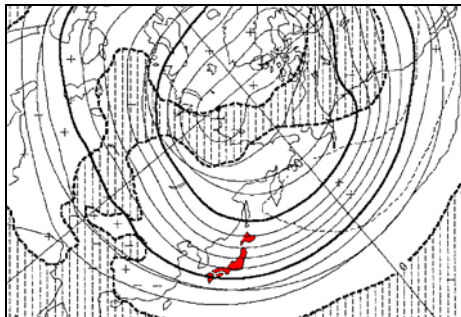
## 1. 向こう 3 か月の確率予報の特徴

	気温	降水量
3～5 月	平年並または高い確率がともに 40%	各階級の確率の偏りは小さい
3 月	高い確率が 50%	各階級の確率の偏りは小さい
4 月	平年並または高い確率がともに 40%	各階級の確率の偏りは小さい
5 月	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい

## 2. 数値予報 (アンサンブル予報) による大気の流れの予想

### 3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図 (右図) :

予想図では、日本付近は広い範囲で正偏差域 (平年より高度が高く、暖気に対応) に覆われ、東北地方の気温も平年並～高い傾向が予想される。ただし日本付近の偏差は小さく、寒気が南下し気温の低い時期もある見込み。



3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図

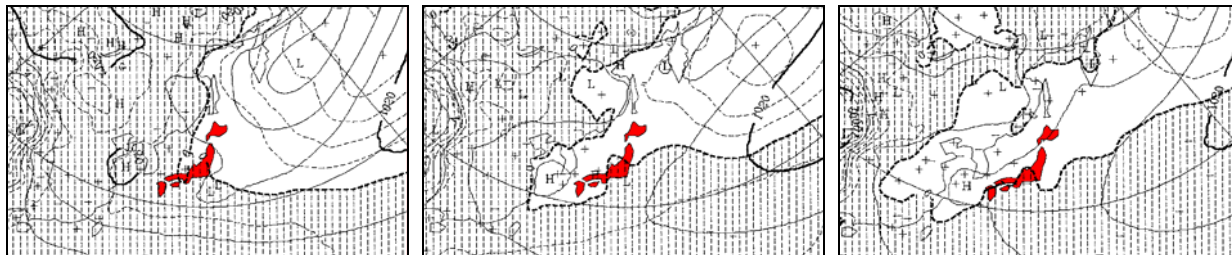
実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎  
陰影部は負偏差 (一般に寒気に対応)

### 月別の地上気圧と偏差の予想図 (下図) :

3 月 : 日付変更線付近を中心に北日本にかけて正偏差 (平年より気圧が高い)。大陸や日本の南海上は負偏差。冬型の気圧配置なることもあるが一時的で、低気圧や高気圧が交互に通る周期変化が基調になる。天気は数日の周期で変わり、東北日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では平年に比べて晴れの日が少ない見込み。気温は高い可能性が大きい。

4 月 : 偏差パターンは 3 月とほぼ同様だが、季節的に冬型の気圧配置ではなくなり、日本付近の等圧線の間隔が広く、高気圧と低気圧が交互に通過する周期変化。日本付近の偏差は小さくおおむね平年と同様の天候を考える。東北地方は高気圧におおわれ晴れて暖かい時期と寒気の影響を受け気温の低い時期があり、寒暖の変動が大きい。

5 月 : 偏差パターンは 4 月とほぼ同様で日本付近の偏差は小さい。平年と同様に東北地方は高気圧におおわれ晴れる日が多い見込みだが、一時寒気の影響を受け天気がぐずつく見込み。寒暖の変動が大きい。

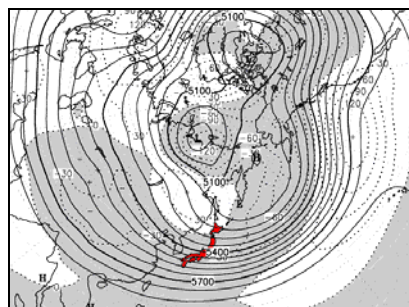


月別の地上気圧と偏差の予想図 (左から 3 月、4 月、5 月)

実線は等圧線 4hPa 毎、点線は偏差 1hPa 毎、陰影部は負偏差

## 3. 今月の循環場の特徴

2 月 (20 日まで) : 500hPa 高度では、大陸から日本付近にかけて東西に負偏差 (寒気に対応) 域が広がる。また、バイカル湖の東は正偏差で気圧の尾根となっており、シベリアの高気圧が強かった。一方カムチャツカ半島付近は負偏差でアリューシャンの低気圧も強かった。冬型の気圧配置は平年より強く、強い寒気が時々南下した。このため東北地方も中旬を中心に低温となった。



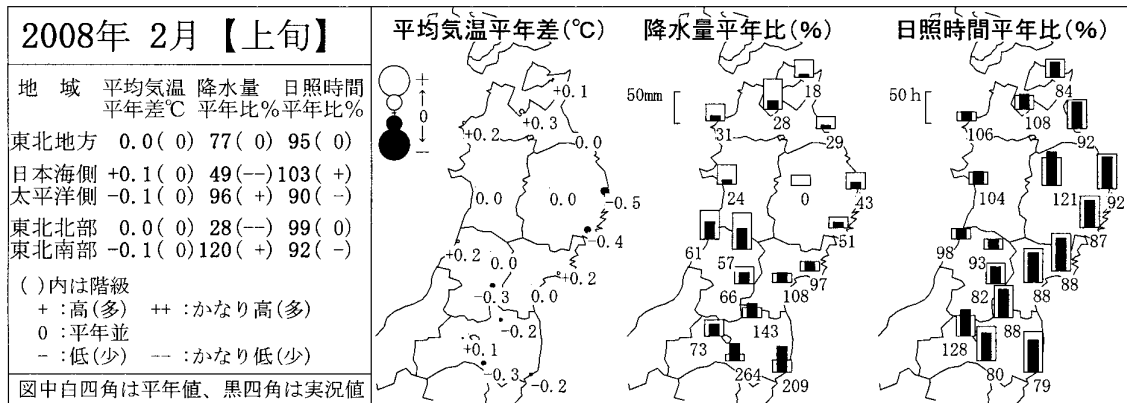
2 月 1 日～20 日の平均 500hPa 高度

実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎、陰影部は負偏差 (一般に寒気に対応)

#### 4. 最近の天候経過

2月上旬：低気圧が数日の周期で通過した。冬型の気圧配置となる日は少なく、東北日本海側でも晴れる日があった。東北太平洋側では天気は数日の周期で変化した。

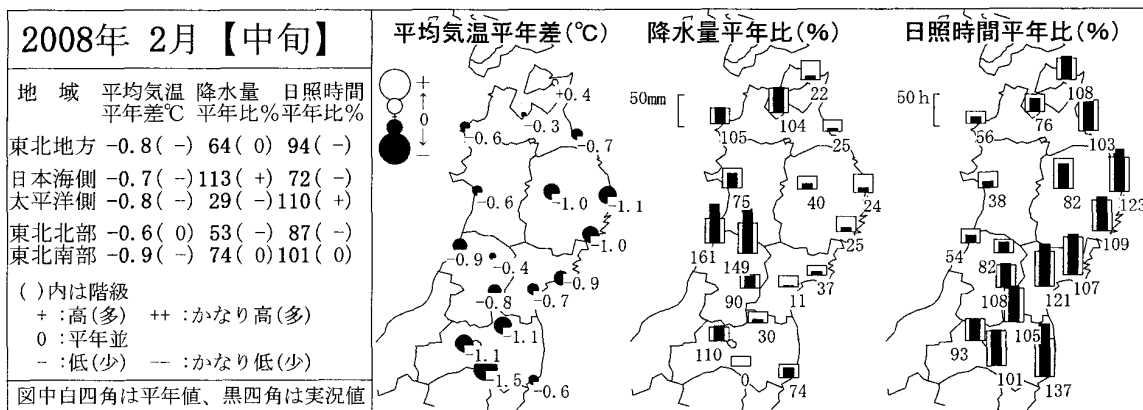
平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で多い。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。



東北地方における2月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

2月中旬：冬型の気圧配置が続き、東北日本海側では雪の日が多かった。東北太平洋側では沿岸部を中心に晴れの日が多かった。

平均気温は東北北部で平年並、東北南部で低い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。

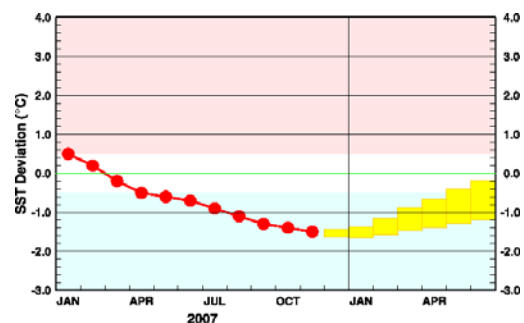


東北地方における2月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

#### 5. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

太平洋赤道域の海面水温は、中部で顕著な負偏差だった。海面から深さ数百mまでの水温や中部太平洋赤道域の東西風の状態は、ラニーニャ現象が持続していることを示している。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後、夏にかけて次第に基準値に近づくと予測される。ラニーニャ現象は夏にかけて次第に弱まっていくと見込まれ、夏の初めまで持続する可能性が高い。



エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の5か月移動平均値の推移（折れ線）と今後の予測（ボックス）

#### <参考資料>

##### 平年の天気出現日数（日）

	3月		4月		5月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	13.3	19.8	16.8	18.2	17.6	17.7
雨の日	14.0	8.3	10.9	8.9	10.4	9.3

晴れの日、雨の日は、それぞれ「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」を用いている。